



上向台小だより

11月号
西東京市立上向台小学校
令和6年11月1日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>



「全国学力・学習状況調査」を踏まえた指導の改善・充実に向けて

副校長

今年も4月18日に、「全国学力・学習状況調査」が行われました。「全国学力・学習状況調査」とは、文部科学省が日本全国で、小中学校最高学年の小学6年生と中学3年生全員を対象に、学力と学習状況の調査を目的に平成19年（2007年）から実施されています。学力を問う出題だけではなく、児童の学習環境や生活環境の質問紙調査も行われます。この調査結果は、教員の学習指導の改善や学力向上のための取組の成果の確認に活用します。

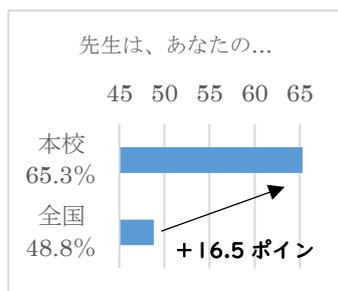
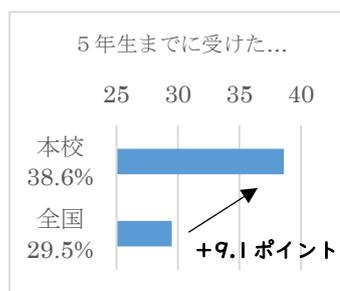
以下は今年度、本校と全国の国語と算数の平均正答率を比較した表です。

	本校平均正答率	全国平均正答率
国語	70%	67.7%
算数	71%	63.4%

本校は、国語・算数ともに全国平均正答率を上回っていることが分かります。

また、児童質問紙の項目で本校と全国との差が大きかった項目は以下のとおりです。

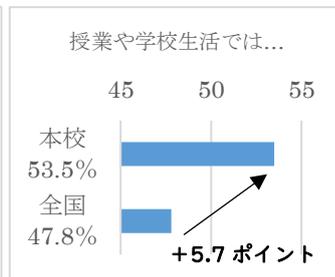
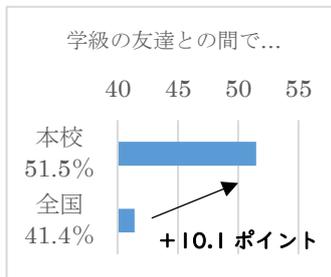
「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」という質問に対しては 9.1ポイント 高く、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という質問に対しては 16.5ポイント 高い結果でした。



国の資料によると、上の2つのクロス集計を分析した結果として、「主体的・対話的で深い学び」に

取り組んだと考える児童ほど、各教科の正答率が高く、自分で学び方を考え工夫していることが挙げられています。

さらに、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」という質問に対しては 10.1ポイント 高く、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」という質問に対しては、5.7ポイント 高い結果でした。



また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両方に取り組んだ児童グループは、他のグループに比べて、授業の理解度、挑戦心・自己有用感・幸福感などが高いという調査結果もあります。

本校では昨年度から、「学びのコントローラーを子どもがもつ授業へ」の転換を図るべく、児童が自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指して学習を進めています。

今後、さらに予測困難な時代においても、「よい変化を起こそうと、自分で課題を設定し振り返り、責任をもって行動する力」を育成できるようにしていきたいと考えています。本校が目指す「令和の日本型学校教育」について、保護者・地域の方と共に、これからの指導の改善・充実に考えていければと思います。